

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。（実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入）

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点]（アウトカム項目の後にある欄です）

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族＝家族に限定しています。

運営者＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目（No.1からNo.87）とサービスの成果（アウトカム）の項目（No.88からNo.100）の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	GARDEN-HOUSE
（ユニット名）	GARDEN-HOUSE, GARDEN-HOUSE II
所在地 （県・市町村名）	長崎県長崎市宝栄町4-19
記入者名 （管理者）	船津 耕治・船津 真美
記入日	平成 21 年 2 月 16 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(☐ 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームにこもらず、地域の方との触れ合いがもてる様、近所の散歩の時の挨拶や、畑を通しての交流。子供との交流。地域の触れ合いセンターや自治会の行事の参加。ボランティアによる、踊りや音楽演奏の受入れ等を通し、ホーム外の人との交流も行っており、今後も、機会があれば出来るだけ行事の参加や受入れを増やして行きたい。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	笑顔での生活は日々取り組まれており、問題に直面したときも、話し合い、対処している。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族には、入所前の見学時、契約時に理念の話をし、掲示しており、何か問題が起きた時等は、ホームで笑顔で生活して頂く為に相談をさせて頂いて、理解頂いていると思います。地域の方も笑顔で見守って頂き、ホーム開設時にも、見学頂き、理念の話もさせて頂きました。今後も互いに笑顔で現在の生活が出来る様、理解を深める様にする。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	ホームの畑を通じ、会話が広がったり、収穫時には配って、ホームで出来た野菜を食して頂いたりしていることも有り、気軽に声を掛けてもらっている。今後も日常にお付き合いできる様、関係を継続していきたいと思っている。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会の行事の参加、地域のふれあいセンターの行事の参加、地域中学校の、体験学習の受入れ、地域保育園の畑の収穫などの受入れ、ボランティアの受入れ等行っており、今後も継続していきたいと思っている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	現在のグループホーム以外に居宅事務所の開設を検討している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員で自己評価表の検討を行い、外部評価を活かし、自分たちでは気が付かない事や、取り組みによる発見もあると思われるので、沢山の意見を受入れ、より良い改善が出来る様に心掛けている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、地域の方や、包括センターの方の意見なども伺え、実践し、サービスの向上に活かしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の研修会には、参加している。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	以前は対象者がおり、利用の支援はさせて頂いた。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待が無い様に注意を払っている。虐待については、時折り話をし、確認している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、契約書、重要事項説明書等の説明を事前に行い、不安点、疑問点も尋ね、理解頂き入居して頂いている。入居してからの疑問点や、意見は日頃からお尋ねするようにしており、解約時には納得いただいている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者や職員には、意見・不満・苦情がある時は、話していただき、改善に向け取り組んでいる。家族や外部の方の受入れ時にも、話をしており、その意見等をお伝えいただいているので、同じく改善に向けて取り組んでいる。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の健康状態や、変化があった時は、家族への連絡は行っており、特別な事が無い場合でも、来訪時には近況を話している。来訪されない方もいらっしゃるので、請求書の送付時に近況や行事等の実施など 書面にて個々に送っている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族からの意見・不満・苦情等は、常に頂いており、その時か、その日から近い日に解決できるよう話を都度行っている。運営推進会議等で、ご意見やご希望を頂き、内部・外部の方と 意見を頂き改善できればと思っている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見や提案は、個々にあるときに聞き入れて反映していくようにしている。しかし、定期的に話し合いの形で開催しているのではない為、今後、意見や提案がある時は、今まで通り聞き入れる事を続け、その他にも定期的に聞く機会を作ろうと思っています。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	話し合いの結果、現在の勤務時間の体制が出来ており、特別な時には、都度対応し、必要な時間の職員の確保に努めている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	以前は職員を固定していたが、同じ職員でサービスを行うメリットと、デメリットがあると思い、現在は職員のユニットの交換等を行っている。今からは、現在の職員がどちらのユニットでも違和感無く対応できる様にしていき、入居者も少しでも多くの人との付き合いが出来ればと思い、少しずつ配置転換も取り入れていく。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム連絡協議会の研修や他での研修も参加を募って、研修を受ける機会は作っている。今後も継続し研修の機会、確保は進めていく。		
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の行事や勉強会などに参加しており、他のグループホーム職員との交流も持っている。 今後も継続し取り組みしていく。		
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	特に人間関係については、ユニットの変更などの工夫を行っている		
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	昇給時、ボーナス、寸志等考慮している。キャリアアップにも協力している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談に来られた時に、本人・その介護者から、困っている事、不安な事、したい事、等の話を伺い、ホームでの生活にあたっての話を事前に伺い、出来る限り受け止め実現出来る様に努めている。		
24 ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族より、自宅などでの生活にあたり、困っている事、不安な事、求めている事は、入居前の相談のときに話をし、入居後のホームでの生活の希望等も伺い、出来る限り実現出来る様に努めている。又、入居後も更に信頼関係が築けるよう努力している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受け、入居可能な状態で、緊急に入居が必要な場合は、出来る限り最短の日程で入居頂いている。他サービスは、そのとき必要な、通院、リハビリ等の病院関係や、介護保険サービス以外のサービスは状況に応じて対応に努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に、ホームを見学頂いたり、ご自宅や病院などに職員が訪問し、お話をさせて頂いている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	あくまでも、自立支援と言うことで、出来る事は職員と共に行い、家庭で過ごしていて当たり前の家事等は、出来るだけ行ってもらっている。レクレーションや、雑談の中から、入居者から学ぶことも多く、職員も教えて頂いたりして支えあっている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	来訪時や、電話や手紙により、日常の生活の話題も常に取り上げて、良い事、悪いこと等、何でも共有し、お互いの意見を交換し、ご家族も一緒に支えていく関係が出来ていると思う。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族と本人の丁度良い距離感で、お互いにゆとりが持てて付き合えており、入居前よりご家族との関係は良好になっていると思われる。入居者の相談も家族に話しやすく、親身に共に考えて頂けるので、関係は良好と思います。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者のなじみの場所での買い物や、お墓参り等、支援を行っているが、入居者の心身の低下等で、回数は減っている。しかし、状況に応じ、個々の希望、思いがあれば、出来る限り支援する様に努めている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	コミュニケーションが取れる、取れないと、個々で関係も変わってくるが、利用者同士のトラブルに配慮しており、良い関係が取れる様努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所後、時折り、お見舞いに行ったり、ご家族の方とばったり会ったときなど、お話をさせて頂いたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来ており、個々に応じ、その都度検討している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の聞き取り、入居後の本人やご家族からの話を再度、普通の会話の中から伺い、把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	出来る事、出来るかもしれないことの把握を行い、個々で一日の過ごし方などの現状把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ミーティングや家族からの希望要望、本人がしたい事など、総合的な意見により、計画作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	急激な変化が生じた時には、家族、医師、職員等、その時の対応を話し合い、現状に即したケアを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	前プランを見直し、新たなプラン作成に、生かしている。		
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	要望としては、レクレーション関係が多く、ホーム内・外で出来る限り柔軟に行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	取締役が民生委員という事もあり、他の民生委員の方にも協力頂いており、ボランティアや中学校、保育園児童の受入れもしている。 ホーム長が地域の消防団に入っており、避難訓練などにも出席頂いたりしており、出来ている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	介護保険サービスの利用は出来ない。地域の施設などの行事などの参加は支援出来ている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	権利擁護は以前行っており、今後も必要に応じ行っていく。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	殆どの方が、入居前の掛かり付けの病院に掛かっており、本人、家族が共に病院との関係が取れるように支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	必要に応じ、都度連絡を取っており、受診・往診・相談が何時でも出来る様になっている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	昔からの掛かり付けの病院に掛かっている為、以前のことも教えていただきやすく、現在の状況も気軽に相談できている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	病院関係の情報交換は密に行うようにしており、入院時には、ほぼ毎日のお見舞いと、その時に看護師や担当の先生に話をさせて頂き、出来るだけ早くの退院と、入院による心の不安を出来るだけ取り除くように、連携、対応している。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期のケアは行っていないが、今後の状況の変化や、状況を見ながら、個別に話し合い、今後の方針を決めながら行っている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	体調の変化や、急激な病状悪化などの時は、医師・看護師との連絡により、往診や訪問看護等で対応させて頂いている。ホームで出来る事、出来ないことは、入居時にもご家族に説明しているが、入居後も状況に応じ話をさせて頂いており、現時点では納得頂いていると思っている。現在は出来る限りの事は行っているが、ターミナルケアは基本行っていない。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	殆どは、入院のまま退所が多いが、その場合も、入院時、入院中に十分に本人のケアの点では情報交換できていると思う。自宅に帰る場合も、住み替えに対するダメージなど、家族と十分話をさせて頂いている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉掛け、個人日誌など、個人情報の取り扱いは気をつけている		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入居者の話を傾聴し、出来るだけ多く、本人の言葉で思いが伝わるように支援している。又、コミュニケーションが取りづらい方は、行動や、表情を観察し、出来る限り思いを感じ取れるように心掛けている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々にあわせ、一人ひとりのペースで生活出来るように支援している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人の希望には、個々の希望の場所へ行ける様に支援している。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	その人の力を活かしながら、出来ている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	個々に、好みを聞いており、食事も無理な場合は、その方だけ〃材料で別のメニューにしたりと、支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々に対応して支援出来ている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日、日中の入浴は決まっている。その中で、午前・午後の希望を聞いたり、入浴できないときの足浴や、清拭も、希望を受入れながら取り組んでいる。失禁時等は、状態によっては入浴日でも無くても実施する事はある。現状で、夜間の入浴はし人員的に安全の確保が難しく、行っていない。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	基本的な就寝時間は決まっているが、個々にあわせて就寝しており、出来る限り夜間良眠出来るようなケアに取り組んでいる。		
(3)その人らしい暮らしを続ける為の社会的な生活支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	趣味や、日常的な役割を行うことで、出来ている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人と家族で話し合い、その結果、本人と職員で話し合い、お金の所持、預かりなどを決め、能力に応じ支援している。又、お金の預かりは基本的に行っておらず、金銭利用時に支払いなどを本人にして頂き、立て替えた形での利用が多くなっている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節での頻度の変化はあるが、散歩や買い物の希望は、都度個々に対応している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	職員と行ける所、家族でなくては行けない所、本人が誰と行きたいのか理解し、支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある場合は支援している。 電話利用が主。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間は基本的に決めておらず、夜間などに本人が眠っているとき意外は、何時でも来訪頂けるようにしている。又、訪問時、人数が多い場合の居室以外の場所の提供や、ゆっくりと過ごせるように心掛けている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束、言葉・行動に気をつけ、いかなる時も拘束をしないケアに取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	朝、7時出勤者が来たときから、夜19時退社の職員が出るときまでの間は、施錠はしていない。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	個別に、介助・見守り・自立と現状の把握を行い、1日の様子も把握を行っている。 個別に日々の行動にあわせ、安全に配慮しケアを行っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	全て個々に対応しており、統一した物品の基準は設けていない。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	全て取り組んでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	他施設での訓練等、参加しており、現職員は全て訓練は行っているが、定期的ではない。今後も講習等の機会がある場合は受講する。ホーム内でも勉強会の議題に上がって取り組んだりしているので、継続していきたい。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防訓練の時に、近隣の方も参加・見学頂いたり、緊急時の連絡体制や、協力要請も働きかけている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	ホームで起こり得るリスクについては、入居が決まった時点から説明を行い、入居後、本人の行動や状態を見て、再度起こり得るリスクについては、話している。本人の行動などによりリスクを伴う行動についても、家族と話し合い、出来る限り本人を抑圧しない様に努めている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝のバイタルチェックと共に、行動、言動等や、見た感じ、活気、総合的に見て日々の状況を確認している。様子に変化がある場合は、都度共有し、直ぐに対応できる様にしている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内服状況は直ぐに確認出来る様になっており、内容・副作用・用法等、変更時には記載し、支援の変化に対応している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎朝の運動や、日中の歩行訓練、水分補給、状況に応じた内服の調整等行っており、排便のチェックは日々行っていて、便秘防止に取り組んでいる。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、個々に応じた、声掛け・見守り・介助を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の食事、水分摂取の他に、食事量の減少時の対応と、出来るだけ多く水分の摂取が出来るように、声掛けし促している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	左記に記入のある感染症の発生は現在までに発生していないが、予防の為、うがい・手洗いの徹底と、風邪をひいたり、咳がひどかったりしたときの、感染予防を行っている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板などの消毒は毎日行っており、魚や、肉など、種類に応じてまな板も分けている。台所や、冷蔵庫の消毒も行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関は段になっているが、外側に手すりとスロープをつけ、玄関無いにも手すりと靴を脱ぎ履きするときのイスを設置している。花壇やプランターを置いて植物を育てている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中は殆どリビングで過ごし、居室にはいない事が多いが、居室で過ごされるときも、光が入るように、カーテンを開け、時折空気の入れ替えを行い、気持ちよく過ごせるように心掛けている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	なんとなく、ソファの席は決まっているような感じだが、他入居者との関係や、一人で過ごしたいときなど、組み合わせや場所を考え、都度に思い思いに過ごせる様にしている。時折りソファの移動等して、使い勝手などを教えて頂き参考にしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来る限り、入居時に本人が自宅で利用していた物を、持ってきて頂く様にお伝えし、見慣れたものに囲まれた部屋作りを心掛けている。 色々な都合で持込が少ない方もいらっしゃるが、暮らしていく中で、本人と一緒に部屋作りも行っている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気、空調調節は都度行っており、入居者に確認しながら、こまめに行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりをつけ歩行し易く、出来る限り自立出来る様に心掛けている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	個々に応じたケアを行っており、混乱や失敗を防ぎ、もしも、混乱・失敗がおきた場合も、自尊心を傷つけないように対応ケアしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダでの栽培や、庭の畑の栽培や花を作って部屋に飾ったりと、活用出来る様にしている。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

入居者の自己選択・決定を基に料理の実施や、日常の生活が行えるように取り組んでおり、理念の笑顔を中心に、何事にも楽しく、明るく、助け合いながら過ごしています。

現時点で、入居者主導の料理作りはうまく進んでおり、現在は月に1～2回程度で行っているが、負担にならない様に少しずつ、楽しみながら回数も増やしていければと考えています。又、料理をきっかけに、別の家事、趣味活動等、幅広く利用者主体での活動が多くもてる様にと、考えています。

まずは、今楽しみながら出来ている料理を皆さんで勧めて行きます。

これから、春を向かえ過ごしやすくなってくる為、外での活動も増やし、全体での外出に加え、個々の外出も頻度を増やし、少しでも多くの笑顔がみられ、充実した生活を送って頂きたいと思っています。

外出の際には、安全の確保、外出できる体調管理も同時に気を配ってます。

体調管理については、今冬は風邪をひかれた方もいらっしゃいましたが、早め早めの対応で、全体の感染も少なく、喘息などの持病がある方の、悪化入院も防ぐ事が出来、今後も徹底して体調管理には早期発見、早期対応を行いたいと思います。